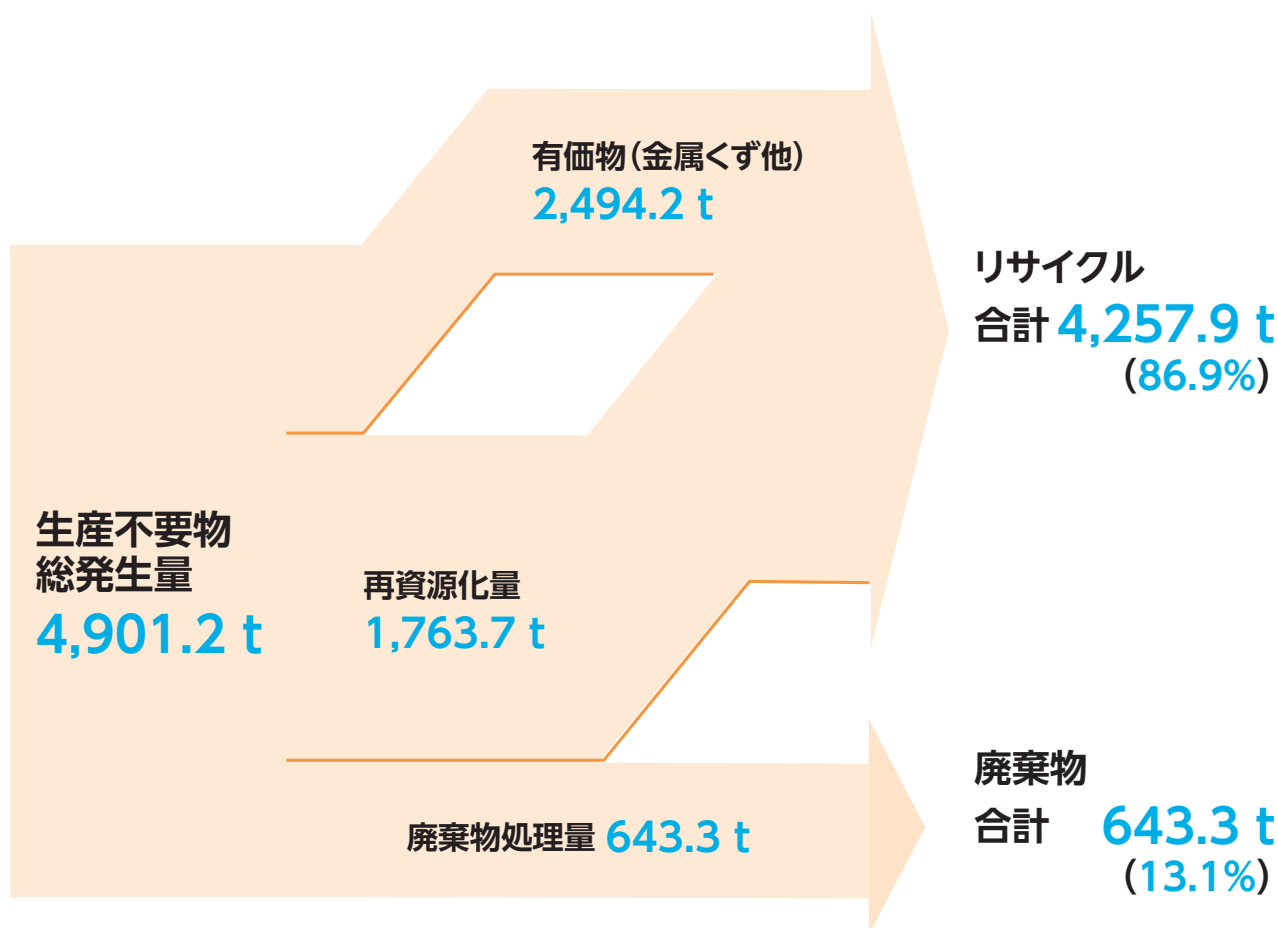


生産不要物の削減の取り組み

IPSの生産不要物のリサイクル目標は、年度ごとにゼロエミッションを達成するとして、リサイクル活動を継続して来ました。ゼロエミッションの定義としては「産業廃棄物と有価物の合計重量比99%以上とする」としています。残り1%は最終処分場へ埋め立てされる重量割合を示しますが、本活動においてこれを完全に0にすることは多大な費用やCO₂が消費され、環境への影響はかえってマイナスになることが予想されます。従ってIPSとしては、第1ステップとして、現実的な取り組みの中で達成に努めてきました。

2022年度は、相生事業所で目標を達成しました。太田工場とニコ精密機器(株)は、わずかに目標に届きませんでした。その他の工場でも目標は達成できませんでしたが、新潟内燃機工場と新潟鑄造工場は、前年と比べて生産不要物の発生量は減少傾向です。生産不要物の発生量は、前年度対比18%増加しました。増加の主要因は、2022年10月頃からIPS新潟発電所が運転を開始した影響であると考えています。引き続きリサイクルの方法を検討しています。

「全工場」における生産不要物バランス図（一般廃棄物も含む）



注) 生産不要物=産業廃棄物+有価物+一般廃棄物

